



2016年9月23日
宮城県亶理郡亶理町
公益財団法人イオン環境財団



「イオン 東北復興ふるさとの森づくり」を通じて海岸防災林の再生を目指します
10/1 (土) 第1回「宮城県亶理町植樹」開催

1,000名の皆さまと13,000本を植えます

宮城県亶理郡亶理町（以下、亶理町）と公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也
イオン株式会社名誉会長相談役、以下、当財団）は、10月1日（土）、3年計画の
1回目となる「宮城県亶理町植樹」を実施します。

宮城県の南東部に位置し太平洋に面する亶理町は、農業が盛んで美しい自然に囲まれた
町ですが、東日本大震災により海岸防災林が流失し、大きな被害を受けました。宮城県・
亶理町・当財団は「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」の協定に基づき、海岸
防災林ならびに緑あふれる森林の再生を目指し、植樹を実施します。

第1回となる本年は、亶理町ならびに全国のボランティアの皆さま1,000名とともに
コナラやヤマザクラなど、震災後に同町で採種・育成した種より育てた苗木を含む
13,000本を植えます。

なお本植樹は、イオンが2012年から実施している東北支援の取り組み「イオン 東北
復興ふるさとの森づくり」の一環でもあります。「にぎわい東北一つなげよう、
ふるさとのチカラ」のテーマのもと、植樹を通じて地域の創生に貢献します。

亶理町と当財団は、地域の豊かな自然と人々の暮らしを守るため、今後も植樹活動に
取り組んでまいります。

記

日 時 2016年10月1日（土）10:00～12:00
場 所 宮城県亶理郡亶理町吉田字砂浜地内
本 数 13,000本
参加者 1,000名
面 積 4.3ha
樹 種 コナラ・ヤマザクラ・クロマツ・ケヤキ・エノキ・クリ・シロダモ（7種）
主 催 宮城県亶理郡亶理町・公益財団法人イオン環境財団
後 援 宮城県
協 力 特定非営利活動法人わたりグリーンベルトプロジェクト・イオン各社
出席者 宮城県亶理郡亶理町 町長 齋藤 貞
(予定) 宮城県岩沼市 市長 菊地 啓夫 様
福島県広野町 副町長 本多 明 様
公益財団法人イオン環境財団 理事長 岡田 卓也
イオン株式会社 取締役会議長 横尾 博
イオンリテール株式会社 取締役 東北カパニー支社長 家坂 有朋

以上

【ご参考】 宮城県における取り組みについて

【公益財団法人イオン環境財団】

■植樹活動



2012年11月、石巻市、地域ボランティアの皆さま、イオングループ従業員1,500名とともに、震災の津波被害を受けた 上釜ふれあい広場にて植樹活動を実施。地域に自生する苗木約15,000本を植えました。

■生物多様性日本アワード（国内賞）

2009年に「生物多様性の保全と持続可能な利用の促進」を目的に、「生物多様性日本アワード」を創設。隔年で国内の優れた取り組みを顕彰しています。



特定非営利活動法人 田んぼ



気仙沼市立大谷中学校

≪宮城県内の受賞団体≫

- | | |
|--------------------------|---------------|
| ・ 日本雁を保護する会 | (2011年 グランプリ) |
| ・ 有限会社熊谷産業 | (2011年 優秀賞) |
| ・ 特定非営利活動法人 田んぼ | (2013年 グランプリ) |
| ・ ネイチャー・テクノロジー研究会 (東北大学) | (2013年 優秀賞) |
| ・ 気仙沼市立大谷中学校 | (2015年 優秀賞) |

■環境活動助成事業

当財団は、開発途上国および日本国内で、生物多様性の保全とその持続可能な利用のために活動する団体に対して助成を行っています。

≪宮城県内の助成団体≫ ※ () 内は助成期間

植樹活動

- | | |
|-----------------------------|---------------|
| ・ 公益財団法人鎮守の森のプロジェクト | (2012年～2015年) |
| ・ 特定非営利活動法人環境再生機構 | (2013年～2015年) |
| ・ 特定非営利活動法人わたりグリーンベルトプロジェクト | (2015年) |

里地・里山・里海の保全活動

- | | |
|---------------------|---------------|
| ・ 伊豆沼・内沼ドジョウ・ナマズ研究会 | (2005年～2015年) |
|---------------------|---------------|

絶滅危惧生物の保護活動

- | | |
|-------------|---------------|
| ・ 日本雁を保護する会 | (1997年～1998年) |
|-------------|---------------|

【公益財団法人イオンワンパーセントクラブ】

■神社境内や社有地にある「鎮守の森づくり」の再生を支援

公益財団法人イオンワンパーセントクラブは2015年度まで、近隣の住民を災害から守る防災林として、神社境内および社有地にある「鎮守の森」の再生を支援しました。東北においては、これまで986名の地域の皆さまにご参加いただき、計9箇所、累計16,433本の植樹を行いました。



2013年 宮城県 気仙沼一景島神社での植樹

【イオングループ】

■植樹活動（イオン 心をつなぐプロジェクト）

イオンは、グループ従業員が一丸となり、さまざまな形で東北地域での環境・社会貢献活動に取り組んでいます。2012年からは労使一体で復興支援ボランティア活動などを進める「イオン 心をつなぐプロジェクト」を開始しています。10年間で被災地沿岸部に30万本を植樹する目標を掲げており、「イオン 東北復興ふるさとの森づくり」などを通じて、本年8月末までに18万3,000本を超えました。また2013年より、全国のグループ店舗および事業所でお客さまや従業員にお渡しした苗木を、約1年かけて育ていただき、その後イオンが成長した苗木を被災地沿岸部へ運び、地域の方々とともに植樹する取り組み「苗木の里親キャンペーン」を実施。2013年より、計18,900本を里親の皆さまに育てていただき、宮城県気仙沼市の沿岸部に植樹しました。



「苗木の里親キャンペーン」で、成長した苗木を届けてくれた皆さま

■イオンが取り組む、東北創生のテーマ



「にぎわい東北 — つなげよう、ふるさとのチカラ」

東日本大震災から5年。
「復興」から次のステージの「成長・創生」へ。
イオンは“にぎわい”をテーマに、笑顔があふれる未来に向けて動き始めます。
東北の生産者の方々と東北のお客さまをつなぐ。
東北のチカラを、日本各地、世界各国の皆さまへとつなぐ。
地域のお客さまの想いを、未来の成長へとつなぐ。
ふるさとのチカラを、未来へ。世界へ。
イオンはこれからも、東北を起点に日本各地、さらには世界各国の皆さまと手をたずさえ、歩み続けてまいります。